

学校の避難所としての機能強化 いじめ相談と自転車保険について

向井 誠議員

質問 災害時における避難所運営の組織体制は。

答 避難所運営については、自主防災組織の役員と

学校長等の施設管理者、市職員が協力し、避難所開設の指揮に当たり、その後は避難者の協力も得ながら運営班を構成していくことを想定しております。今後は

各公民館を拠点とした単位で話し合いの場を設けていきたいと考えております。

質問 備蓄品の現状は。

答 非常食や飲料水、生活必需品等を備蓄しておりますが、想定している避難者に対する備蓄の必要量は足りていないため、今後は民間事業者との協定による

る流通備蓄の調達や市民、事業者へ備蓄の推奨を進めたいと考えております。

質問 備蓄倉庫については。

答 現在、全小学校に設置を行い、今年度は第三中学校に設置したほか、平成33年度を目途に全中学校に設置したいと考えております。

質問 冷暖房機器の確保は。

答 ストーブや大型ジェットバーナー等が180台、家庭用・大型扇風機が140台ありますが、大型扇風機については確保されてい

ない学校も複数あることから、今後関係各課と情報共有を図りながら研究してまいりたいと考えております。

質問 トイレの整備状況は。

答 現在までのトイレの洋式化率は小学校約43%、中学校70%、幼稚園約76%であり、今後も計画的に洋式トイレの整備等を進めてまいりたいと考えております。

質問 いじめの早期発見アプリの導入の考えは。

答 SNSを活用した相談体制は、悩みを抱える児童

生徒にとって相談手段の一つになるものと考えており、導入に伴う費用や人材確保等の課題もありますが、今後相談体制の事業効果を見極めながら方向性を探っていきたくと考えております。

質問 中学校の自転車保険加入の現状と推進の考えは。

答 入学説明会等で加入を推奨し、現状では約60%の加入率ですが、掛金を補助する考えはなく、引き続き交通安全指導及び加入推奨に努めたいと考えております。

学校給食センターの整備と 学校給食について

渋谷 理津子議員

質問 学校給食センターを整備することになった経緯についてお伺いします。

答 本施設は建設から40年以上経過し、建物や設備の老朽化及び耐震性が脆弱であることから施設整備の方針を決定いたしました。
質問 新しい学校給食センターの特色は何ですか。

答 災害時への備えとして、自家発電や太陽光発電、炊き出し対応の調理機器を整備するとともに、アレルギー食専用の調理スペースや見学スペースを設け、食缶は保温性・保冷性に優れたものに変更いたします。

質問 給食費は何に使われていますか。

答 給食費は小学生が月額4350円、中学生が月額5200円であり、全額が食材費に充てられ、施設の光熱水費等の経費は全額公費で賄っております。

質問 給食費の援助制度はどうなっていますか。

答 経済的理由による給食費の支援として、教育扶助や就学援助制度を活用した援助を行っております。

質問 給食を食べる側の意見をどう把握していますか。

答 各学校の給食主任や

栄養士による献立会議において意見を集約し、献立に反映させております。また、季節の行事食や全国の郷土料理、名物料理を取り入れた献立も実施しております。

質問 地産地消の利点は、地域との一体感や災害時の食材のルート確保、さらに地域経済振興にも寄与できるところですが、給食での地産地消はどのように行われていますか。

答 米飯は全部館林産米にし、キュウリやナス等も

本市で収穫した野菜を使い、地場産率は平成27年度の11.6%から28年度には37.1%まで向上しました。うどん・しょうゆ等も地元企業の製品を使っています。

質問 今後どのように食育を推進していきますか。

答 見学スペースやOA機器を備えた研修室が整備される新しい給食センターの愛称「スクールランチぼんちゃん」を食育活動の拠点として活用してまいります。

いと考えております。